≪2020 年 7 月（通算 285 回）月例会報告≫

＊＊＊

「With コロナ」の時代に向けて①

―2020 年度の U-18 フットサルをめぐって－

＊＊＊

【日　時】2020 年 7 月 8 日（水）19：00～21：00（終了後はオンライン懇親会　～23：30）
【会　場】それぞれの居場所（「Zoom」を用いたオンライン月例会）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて①－2020 年度の U-18 フットサルをめぐって

【演　者】中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（㈱シックス）ほか各参加者

【参加者（会員・メンバー）7 名】
小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（シックス、神戸アスリートタウンクラブ）、岸巨卓（サロン 2002）、浅見明子（J-Workout 株式会社）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）
【参加者（会員・メンバー以外）8 名】
埒田直文（神戸国際大学附属高校）、小曽根潮（立命館宇治中学）、永松慎二（フローライト・マキナ）、有吉朋喜（Futsal Club BUBBLE）、橘 和徳（富山中部高校）、金子諭（FFC スポーツアカデミー）、竹山こはる・野田勇紀（明星大学教育学部 3 年／保体科教育法受講生）

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

＜目　次＞

概要（理事長より）
Ⅰ．U-18 フットサルの 20 年－サロン 2002 と東京都サッカー協会の取り組み
Ⅱ．2020 年度の U-18 フットサル①－第 20 回東京都フットサルチャレンジ U-18 をめぐって
Ⅲ．2020 年度の U-18 フットサル②－神戸グリーンアリーナカップをめぐって
Ⅳ．2020 年度の U-18 フットサル③－第 5 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップに向けて

概要（理事長より）【月例会案内より】

国内における U-18 年代のフットサルは、2001 年度の東京都サッカー協会主催大会から本格的にスタートし、今年で 20 周年を迎えます。いまでは JFA 主催の全国大会が開催され、NPO サロンも toto の助成を受け、全国のリーグチャンピオンが集う競技会を毎年 1 月に開催しています。

ところが今年は「新型コロナ」の影響であらゆる活動が停止し、JFA 主催の全国大会は中止、U-18 年代の活動も 6 月に入るまでほぼできない状態が続いています。

このような中で、U-18 年代のフットサル活動の一つの目標、あるいは動機づけとして、各地でリーグ戦やフェスティバル開催の動きが始まっています。第 20 回東京都フットサルチャレンジ U-18 は、当初の予定通り 8 月 9、10 日の開催へ向けて、神戸グリーンアリーナの大会も 8 月 22、23 日開催で準備を進めています。そして NPO サロンが主催する第 5 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップもまた、1 月 10～11 日に長野県千曲市で開催すべく準備を開始しています。

7 月の月例会では、これらの競技会準備にあたって何が課題となり、どうすればできるのか、with コロナの時代におけるフットサル大会のあり方について意見交換したいと思います。あわせて各地域における U-18 フットサルの現状と今後について情報交換し、with コロナの時代にどうあるべきかを議論したいと思います。

Ⅰ．U-18 フットサルの 20 年

－サロン 2002 と東京都サッカー協会の取り組み（中塚義実）

1．サロン 2002 とフットサル

「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げるサロン 2002 は、法人化以前から、フットサルに関わる人が多く集まる場であった。サロン初の「プロジェクト」はフットサルを取り上げたものであり、その成果は『フットサル連盟は必要か』の冊子にまとめた。21 世紀の競技団体のあり方を視野に入れた提言は、プロジェクトのメンバーである研究者、競技団体の関係者、現場の指導者、メディア関係者、フットサル愛好者など多様な人材が何度も集まり意見交換してまとめたものである。

＜参考：過去の月例会報告より①（2000～2007 年度）＞

★2000 年 10 月 27 日　「サロン 2002　フットサルプロジェクト 1」の展望と課題
－フットサルの現状と連盟の意義（フットサルプロジェクト 1）
https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2000/2000-10.pdf

★2000 年 12 月 21 日　フットサル連盟は必要か－21 世紀のスポーツと、競技団体のあり方
（フットサルプロジェクト 1）
https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2000/2000-12.pdf

★2001 年 2 月 17 日　2001 年のフットサル連盟（梶野政志）
https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2001/2001-2.pdf

★2008 年 2 月 27 日　東京都からみた日本のフットサルのこれまでとこれから（野口良治）
https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2008/2008-2.pdf

インターネットが普及し、E メールで簡単に連絡を取り合うことができるようになった 1990 年代後半から、フットサルもサロン 2002 も飛躍的に発展を続ける。双方に関わる多様な人材は、オン・オフともに交流を続け、気が付けばいくつかの事業がいまにつながっている。

高知県で始まり、いまでは日本フットサル連盟の中核行事の一つとなっている「トリムカップ」も、その設立にはサロン 2002 が深くかかわったことがわかる。

＜参考：過去の月例会報告より②（トリムカップ関係）＞

★2007 年 4 月 27 日　地方からみたレディースフットサルの現状と今後－トリムカップ・レディースフットサル大会をめぐって（中塚義実）

https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2007/2007-4.pdf

★2008 年 3 月 29 日　成田十次郎先生にきく－高知・日本・ドイツのサッカーとトリムカップ

https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2008/2008-3.pdf

本日の主題である「U-18 フットサル」も、このような中で育まれてきた事業の一つである。

2016 年度にはじまる「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」は、「U-18 年代のレベルアップ」とともに「日常的なリーグ環境の整備」をねらいに掲げ、toto 助成を受けて NPO サロンが主催する事業である。全国各地に U-18 フットサルリーグが整備された暁には公的組織が主催できるよう、いまは底辺から積み上げているところである。昨年度の第 4 回大会では、開催地である長野県千曲市長のキックオフセレモニーもあり、地域社会との連携も深まってきた。

「新型コロナ」でさまざまな大会が中止となっている今年度の第 5 回大会を、2021 年 1 月に長野県千曲市で予定している。万全の感染対策を施しながら「with コロナ時代のモデルとなる大会」として開催したいと考える。今日の月例会で各地の状況をいろいろお聞きしたい。

＜参考：過去の月例会報告より③（U-18 フットサル関係）＞

★2012 年 4 月 26 日　U18 年代のフットサル－2001 東京、2012 名古屋、そして未来へ（中塚義実）

https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2012/2012-4.pdf

★2013 年 3 月 30 日　公開シンポジウム「U18 フットサルを語ろう！」

（松崎康弘、大立目佳久、岩本芳久、中塚義実）

https://salon2002.net/src/pdf/symposium/2012_sympo.pdf

★2014 年 8 月 30 日　現役最年長記者　賀川浩さんが語る

－2014 FIFA ワールドカップ・ブラジルと U 18 フットサル（賀川浩）

https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2014/2014-8.pdf

★2017 年 3 月 29 日　NPO サロンの事業を考える②－U-18 フットサル（中塚義実、本多克己）

https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2017/2017-3.pdf

★2019 年 2 月 27 日　サロン 2002 からのメッセージ①ユース年代にリーグ戦を

－U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップをめぐって（本多克己、中塚義実）

https://salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2019/2019-2.pdf

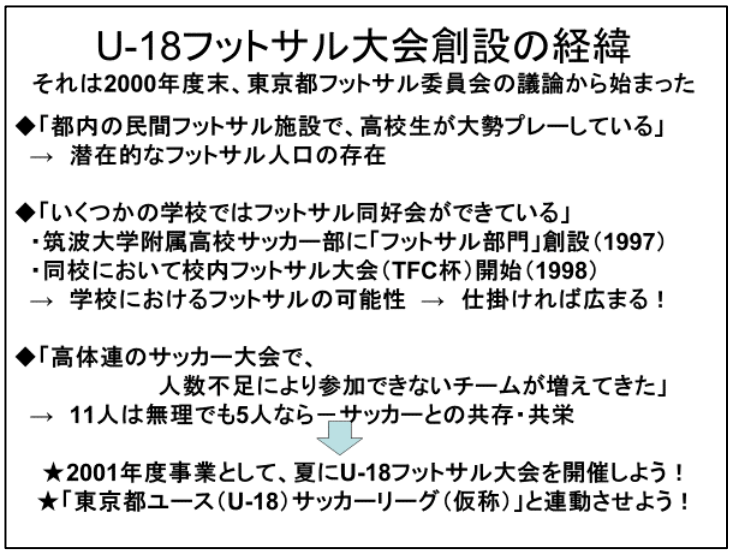
２．U-18 フットサルのはじまりーそれは東京都フットサル委員会の議論から始まった

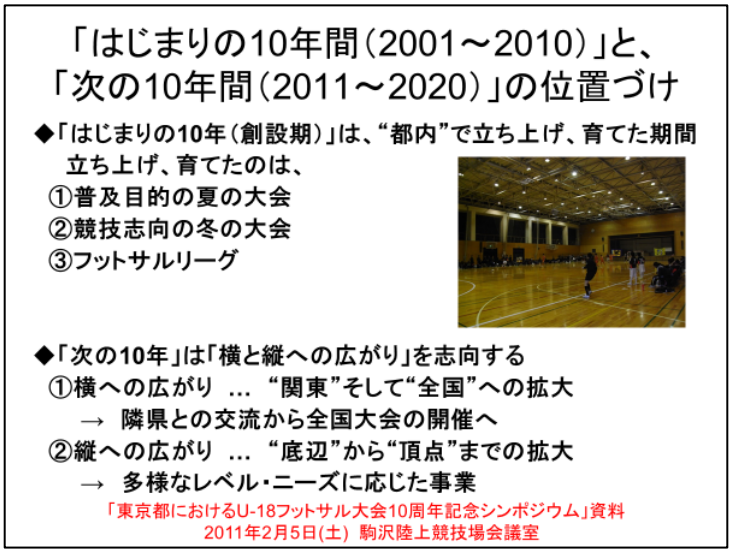
2001 年 8 月に開かれた（公財）東京都サッカー協会（TFA）主催「第 1 回東京都ユースフットサル大会」が、U-18 年代の公式大会の始まりである。翌年 2 月には「第 1 回東京都フットサルチャレンジ U-18」が開かれ、翌年からは夏と冬の大会名を入れ替えた。年 2 回の都内完結型競技会は、フェスティバルとしていまも続く。8 月の JFA 主催大会予選と年間を通してのリーグ戦もあり、東京都では U-18 年代の充実したフットサル環境が整備されている。

はじまりは、2000 年度末の TFA フットサル委員会内での議論にあった。当時の委員長は梶野政志。次年度の事業計画についてのフリーディスカッションの中で、3 種部会長の徳田仁が「都内の民間フットサル施設で高校生が大勢プレーしている」ことを述べた。続いて 2 種部会長の中塚義実も「いくつかの学校でフットサル同好会ができている」「高体連のサッカー大会で、人数不足により参加できないチームが増えてきた」ことを紹介し、U-18 年代のフットサル大会実施の機運が芽生え、2001 年夏に第 1 回大会を行うことが決まった。梶野も徳田も中塚も、また当時 TFA 事務局でフットサル事業を担当していた野口良治も、いずれもサロン 2002 の会員である。

2005 年度からの 3 年間は、JFA キャプテンズミッションの補助金を受けて「東京都における U-18 フットサル大会」事業に取り組み、東京都の実践を全国に紹介した。これを機に各都道府県でも U-18 フットサルの取り組みがスタートする。

2010 年度末、「東京都における U-18 フットサル 10 周年記念シンポジウム」が開かれた。こじんまりした会ではあったが、これまでの取り組みを共有するとともに、「次の 10 年は横と縦への広がりを志向する」ことを確認し合う、貴重な場であった。





サロン 2002 の“同志”である本多克己が中塚義実の勤務校に来校し、全国大会開催へ向けて動き出したのはこの年の 9 月のことで、それが翌年 3 月の「U-18 フットサルトーナメント 2012」の開催につながる。翌年の同大会付帯イベントとして開かれた「サロン 2002 公開シンポジウム　U-18 フットサルを語ろう！」は、のちに創設される JFA 主催の単独チームによる全国大会と、JFF 主催の選抜大会につながった。法人化以前のサロン 2002 の大きな成果であった。

JFF 主催の選抜大会はいまでは開催されていないが、一方で NPO 法人サロン 2002 主催の「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」は今年度で 5 回目となる。「with コロナ」の時代の大会はどうあるべきかを慎重に検討しなくてはならない。

このあと各地の状況について情報交換したいが、まずは東京都の現状から。（文責：中塚義実）

Ⅱ．2020 年度の U-18 フットサル①

－第 20 回東京都フットサルチャレンジ U-18 をめぐって（中塚義実）

1．「新型コロナ」と U-18 年代のフットボール

「新型コロナ」の影響で、3 月から全国の小中高校は一斉休校となった。4 月初旬の緊急事態宣言発令により休校期間はさらに伸び、全国規模の競技会やその予選、リーグ戦や定期戦など、U-18 年代のスポーツ行事は軒並み中止・延期となった。

東京都における U-18 年代のサッカー＆フットサルの年間スケジュールは右図のようになっている。レベル別のサッカーリーグの合間に高体連やクラブユース連盟の競技会があり、その合間を縫うようにして U-18 フットサルのイベントが配置されている（U-18 年代で競技者としてフットサルに取り組む者がサッカーと掛け持ちするのは難しいが、サッカーのオフシーズンにフットサルに取り組むことは十分可能である）。

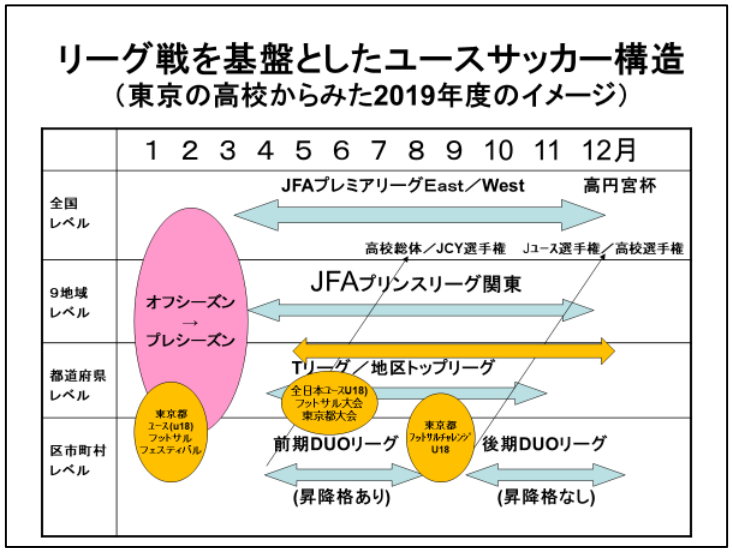
「新型コロナ」の影響で、2020 年度は高体連サッカーの関東大会と高校総体の中止が早々に決まり、いつもは 8 月中旬にはじまる選手権予選も 9 月に延期となった。クラブユース連盟も同様である。

フットサルも、例年は 5 月の連休あたりから JFA 全国大会の東京都予選が始まるのだが中止。リーグ戦も 9 月に延期となった。

都内完結型のフェスティバルである「第 20 回東京都フットサルチャレンジ U-18」は、8 月 9～10 日に住友金属鉱山アリーナ青梅（青梅市総合体育館）で開催することになっていた。6 月ごろからようやく分散登校が始まった都内の学校では部活動も再開されない状況であったが、TFA フットサル委員会ユース部会では、このフェスティバルについて 6 月ごろから検討を始めていた。体育館で行われるフットサルには屋外の活動以上に感染防止対策が求められる。暑熱環境も心配である。このような状況下で開催するべきか否か、さまざまな意見があった。

2020年度の東京都の状況(U-18)

＜高体連ｻｯｶｰ＞	＜U-18フットサル＞
~~4月　関東大会予選~~	~~5月　JFA全日本U-18予選~~
~~4末～5月高校総体予選~~	6~8月→9月以降
~~6月　関東大会~~	都リーグ(前期)
~~8月　高校総体~~	8月　都ﾁｬﾚﾝｼﾞU-18
8月→9月以降	各地のﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ
選手権1次予選	~~JFA全日本U-18~~
選手権2次予選	9~12月　都リーグ(後期)
1月　高校選手権	1~2月　都ﾕｰｽﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ
※クラブユースも同様	※1月初旬　U-18FLCC[20]



2．アンケートの実施と開催の方向性

そこで、これまで同大会に参加したクラブの代表者にアンケート調査を実施することにした。質問項目は、１）本大会への参加を希望するか否か。希望する場合は希望レベル×チーム数）、２）現時点での活動状況、3）今後の各クラブの活動の見通し、４）大会参加の可能性と課題、5）その他、である。

＜アンケートの概要（**6/25** 配信、**7/1** 提出）＞

U-18 年代のフットサルは 2001 年度に東京都で始まり、今年が 20 周年となります。しかし新型コロナウィルスの影響でここまですべての事業が中止や延期となったのはご存じのとおりです。（略）

このような状況下で、第 20 回東京都フットサルチャレンジ U-18 について議論しています。

日時・会場は、事前に計画された以外では難しい状況です。感染防止と暑熱対策は、プレーヤーだけでなく審判や運営スタッフなど、大会に関わる全ての人における大前提です。

会場は 2 日間確保していますが、両日とも短時間で撤収できるのが望ましいでしょう。体育館が「密」にならぬよう、会場入り人数の制限も必要です。こうした事情を考慮すると、チャンピオンを決める競技会というよりも、各チームが 2 試合程度の交流試合を楽しめるフェスティバルの形が現実的と考えます。「活動再開の喜びを分かち合う」ことがこの大会の目的となるでしょう。

「いまは無理してやるべきではない」との意見がある一方で、「こういうときだからこそ万全の態勢で、他のモデルとなる大会を開くべき」との考えもあります。

皆さんのご意見をお聞かせください。それを踏まえて実施委員会で再度審議し、改めてご案内させていただきます。

【現時点での大会構想】

日　時：2020 年 8 月 9 日(日)13：00～18:00 または 10 日(月祝)10：00～15:00 の内、1 日程を選択

会　場：住友金属鉱山アリーナ青梅（青梅市総合体育館）2 面開催

形　式：参加希望チームによる交流戦

　　参加チームの希望レベルでクルーピングした交流戦（1 チーム 2 試合程度）

1 チームの当日参加人数：スタッフを含め上限 15 名

参加費：10,000 円程度を想定（参加希望チーム数により変動）

アンケートには 21 クラブ（学校運動部 15、フットサル/サッカークラブ 6）の代表者から回答があった。そして、大会が開かれた場合「参加を希望する」が 15、「どちらともいえない」が 6 あった。

出場希望チーム数は、全部合わせると約 30。内訳は次のとおりであった。

A（全国レベルを希望）　…　7 チーム

B（東京都平均レベルを希望）　…　18 チーム

C（初級レベルを希望）　…　5 チーム

自由記述からは各クラブの多様な背景を踏まえ、いずれも活動を再開して間もないこと、今後の情勢次第で活動は左右されること、せっかく再開した活動を何とか継続・発展させたいと願っていることが伺えた。この大会への期待も感じられた。

そこで「開催する」方向で準備を進めることとした。

３．「大会の方針」の提示と告知

「健康・安全」は大前提である。それは選手・指導者ら参加者にとってだけでなく、審判員、運営スタッフ、実施委員も含めたすべての人の「健康・安全」である。無理はできないしすべきでない。

ユース部会で意見交換して作成した「大会の方針」は次の文書にあるとおりである。「３．大会の実際（大会構想案）」には、「希望レベルでグループ分けした 3 チームの交流戦」とし、「選手・スタッフ含めて最大 15 名」が体育館に入館できることとして募集を開始した。

関係各位　　2020.7.8.

第 20 回東京都フットサルチャレンジ U-18 の方針について

（公財）東京都サッカー協会
フットサル委員会第 2 種部会

いつもお世話になっております。標記の件について経過報告と今後の見通しを提示します。

内容をご確認の上、趣旨に賛同し参加を希望される場合は 7 月 15 日（金）までに、チームごとに指定のフォームにご入力ください。実施委員会で大会の詳細を検討し、7 月 20～22 日の期間に実施要項と組み合わせ、スケジュール等をお送りします。代表者会議は 7 月 28 日（火）19 時よりオンライン上で開催します。大会の趣旨や諸事項を全体で確認するとともに、審判・運営スタッフの不足が見込まれる場合の対応を協議します（参加者自身が大会運営に関わることをお願いします）。

１．アンケート結果（略）

２．大会の方針

アンケート結果を受けて、標記大会を開催する前提で募集を開始いたします。ただし以下をご確認ください。

【目的】１）フットサル活動再開の喜びを分かち合う（する・みる・語る）
　　２）“with コロナ”の時代にふさわしい大会とする（ささえる）

【内容】１）チャンピオンを決する競技会ではなく交流試合として行う（する・みる・語る）
　　２）参加者自身が“当事者”として大会運営に関わる（ささえる）

【運営のポイント】

・同時間帯に体育館内にいる人数を制限する（短時間で入れ替わる）
・審判と運営スタッフは TFA から派遣する。ただし参加チームの協力を求める。
・各チームには責任能力ある大人が帯同し指導する。
・感染症予防対策と暑熱環境対策に留意する。（以下「３．大会の実際（大会構想案）」は略）

注）月例会が開かれた 7 月 8 日は、この文書を送信したところまで。以下は月例会後の動向

４．再度の意思確認と実施要項の確定

募集締め切りの 7 月 15 日段階で、21 クラブから 32 チームの申し込みがあった。予想外の多さである。体育館内の密を避け、「健康・安全」に運営するには 32 チームでは多すぎる。かといって主催者側の判断でチーム数を調整するのも、ここまで丁寧に大会を作り上げてきた方針に反する。

7 月 17 日の実施委員会を経て、改めて p.8～10 にある文書（補足資料１）を各チームに送り、意向をお聞きした。「私たちが求めるこの大会の出場チーム像の条件」に、ポイントが記されている。

通常の大会参加資格をクリアした上で、
条件１）２－3）各チームで準備すべきこと（参加の条件）をすべてクリアしていること
条件２）7 月 28 日の代表者会議（オンライン）に各チームの代表者が出席できること
注）複数チーム出場の場合はチームごとに代表者が必要です（ブロックごとに試合順を決定します）
注）「チーム代表者」とは、チームを代表し、かつ選手に責任を持って指導できる人のことです
条件３）大会の目的と内容を十分理解しすべての参加者が実践すること（代表者が指導できること）

24 チームを超えた場合、次のチームを優先します。
条件４）「フットサル活動再開の喜びを分かち合う」場が、この大会しかないチーム
条件５）高校 3 年生の最後の大会など、特別な位置づけをしているチーム

条件１）～３）は、「with コロナ」の状況下でモデルとなる大会を行うために、自らが主体となって大会をささえる自覚と責任を持つことを、これまで以上に求めたものである。条件４）５）は、制約のある中で「ここでしかできない」プレーヤー、チーム、クラブに参加してもらいたいという意図である。

おおむねこの意図は届いたと考える。

５．再度の意思確認－チーム数の調整

調整の結果 24 チームでの大会が確定した。3 チーム×8 ブロック。試合が終われば退館し、次のチームが入館する形である。運営の手順もほぼ確定し、7 月 24 日には必要書類を各チームに送信した。

7 月 28 日の代表者会議は、「with コロナ」の時代の大会のあり方を共有する「決起集会」でもあった。

６．大会中止（8 月 3 日）

代表者会議が開かれた週の後半から、東京都内の陽性者数が顕著に増加してきた。他県への拡大傾向もある。

7 月 31 日（金）の段階で、都立三宅高校から「出場を見合わせたい」との連絡が入る。いつもは船便で移動する三宅島の学校は、今回は飛行機で移動し宿泊を伴わない計画であった。陽性者増のニュースと島しょ部の特殊性からやむなく出場を辞退されたようだ。同様の判断をするチームが出てくる可能性はほかにもあるだろう。その一方で、この大会を目標に、あるいはささえとしてフットサルに取り組んでいるところもあることもわかっている。

この週末は、各方面と連絡をとりながら情報収集と意見集約に努めた。そして改めて、2 種部会としては「希望するチームがあるなら開催する」ことを確認し、その一方で、8 月 5 日に改めて開催について連絡することを明記した 8 月 1 日付文書（p.11、補足資料２）を用意した。

しかしこの文書が配信されることはなく、代わりに 8 月 3 日付で「中止」の連絡を各チームに連絡することとなった（p.12、補足資料３）。

何が正解かはわからない。「with コロナ」時代のあるべき姿をこれからも求めることになるだろう。

注）4～6 は月例会後の動向であるが、報告書作成時には起きている事態なので掲載した。

補足資料1

出場希望チーム代表者各位　　2020.7.20.

第20回東京都フットサルチャレンジU-18の参加について【再確認依頼】

（公財）東京都サッカー協会
フットサル委員会第2種部会

「新型コロナ」の感染者数が増加傾向にあり、緊張感をもって過ごされていることと存じます。

標記大会は7月15日に募集を締め切り、21クラブ（団体）から32チームの参加申し込みがありました。7月16日のフットサル委員会を経て17日の実施委員会で競技方法を検討しましたが、32チームすべてを受け入れることはできないとの結論に達しました。チーム数の削減が必要です。

実施委員会で削減対象チームを判断することも考えましたが、ここまで皆さんのご意見をお聞きしながら「皆で作り上げていく」形をとってきたので、再度、32チームの代表者に、本大会の趣旨と方法をご理解いただいたうえで、それでも参加したい、参加できるのかの意思確認をさせていただきます。時間がなくて申し訳ありませんが、7月22日（水）13時までにご回答ください。7月22日（水）に改めて実施委員会を開き、25日（土）までに実施要項と組み合わせ、スケジュール等をお送りします。代表者会議は7月28日（火）19時よりオンライン上で開催します。

１．大会の方針（再掲）

標記大会の目的・内容は次のとおりです。再掲します。

【目的】１）フットサル活動再開の喜びを分かち合う（する・みる・語る）
　　２）“withコロナ”の時代にふさわしい大会とする（ささえる）

【内容】１）チャンピオンを決する競技会ではなく交流試合として行う（する・みる・語る）
　　２）参加者自身が“当事者”として大会運営に関わる（ささえる）

【運営のポイント】
・同時間帯に体育館内にいる人数を制限する（短時間で入れ替わる）
・審判と運営スタッフはTFAから派遣する。ただし参加チームの協力を求める。
・各チームには責任能力ある大人が帯同し指導する。
・感染症予防対策と暑熱環境対策に留意する。

２．大会を検討するにあたって（現状と参加者への要望）

１）参加申し込み状況

21クラブ（学校運動部13、フットサル/サッカークラブ8）から32チームの申し込みがありました。

希望レベルの内訳は次のとおりです。

A（全国レベルを希望）　…　10チーム
B（東京都平均レベルを希望）　…　20チーム
C（初級レベルを希望）　…　2チーム

２）運営面の状況

「新型コロナ」の影響により、審判員と運営スタッフが確保できる保証はありません。出場チームだけでなく、運営側の安全確保・健康管理も重要です。長時間の大会運営は避けねばなりません。よって以前からご案内のとおり、出場チームの皆さまには、自分たちが使用したベンチ、待機場所の消毒はもちろんのこと、試合運営面でのご協力もお願いします（詳細は代表者会議にて）。

会場では更衣室の利用はできません。待機場所はアリーナのスタンドとなりますが小規模です。
ベンチ間隔をとる必要があることなどから、アップスペースはほとんど確保できません。他の利用者もいるのでロビーに留まることもできません。
社会人レベルでは、関東フットサルリーグの延期が決定されました。東京都社会人 1 部リーグも延期です。今後の状況次第でこの大会の開催可否についても判断を迫られることがあるかもしれません。暑熱環境下にあるため、試合当日に中止の判断をせざるを得ないこともあります。

３）各チームで準備すべきこと（参加の条件）
参加者（選手・スタッフ合わせ上限 15 名）が健康であり、かつ参加について本人・保護者・団体責任者の同意が得られていることが条件です。具体的には 2 週間前からの健康観察、各保護者の同意書、学校の場合は学校長の出場許可があることです。書式はこちらで用意しますが、出場される場合はこれらの意義を周知徹底の上で準備し、主催者の求めに応じて提示できるようにしてください（会場へ忘れずに携行すること。忘れた場合は出場できません）。
会場での「密」を避けるため、チームの人数は「スタッフを含め上限 15 名」としています。スタッフが複数いる場合や応援の保護者がいる場合は、選手数を減らしてください。当日参加できなくなることもあるでしょう。メンバー表の変更は当日まで認めますが、メンバー表のコピーは各チームで行ってください。参加の可能性がある方には、2 週間の健康観察と同意書の提出をお願いします。
なお、試合中のベンチでのビブスの使いまわしはできません。各チームで選手の人数分×2 セット分はビブスをご準備ください。

３．競技形式・日程（7 月 17 日の実施委員会で決定したこと）

【日時】2020 年 8 月 9 日(日)12：00～18:00 または 8 月 10 日(月祝)10：00～16:00（片付け含む）
※各チーム 1 日程
【会場】住友金属鉱山アリーナ青梅（青梅市総合体育館）　2 面開催
【形式】参加チームの希望レベルをもとに 3 チームずつ 8 グループに分かれて三つ巴戦
【チームの人数】スタッフを含め上限 15 名
※メンバー表は 8 月 3 日（月）までに所定の書式で提出する。修正は試合当日まで可とするが、その場合のメンバー表のコピーは各チームが責任を持って行う。
【参加費】各チーム 10,000 円程度　※当日会場にて徴収（当日参加できなくなった場合も徴収する）
【更衣と待機】
・できるだけ更衣を済ませて来場する。待機場所を更衣に用いてもよい。
・スタンドを 6 区画に分けて待機場所として使用する。前チームの退出後に次チームが入館する。
【競技形式と大会日程】
・20 分前後半のランニングタイム。ハーフタイムは 5 分
・ユニフォームは事前に当事者同士で確認。MCM は行わない

8 月 9 日(日)

	A ピッチ	B ピッチ
12:00～12:25	ｸﾞﾙｰﾌﾟ A1 – A2	ｸﾞﾙｰﾌﾟ B1 – B2
12:40～13:05	ｸﾞﾙｰﾌﾟ A2 – A3	ｸﾞﾙｰﾌﾟ B2 – B3
13:20～13:55	ｸﾞﾙｰﾌﾟ A3 – A1	ｸﾞﾙｰﾌﾟ B3 – B1
待機場所の消毒後、チーム入れ替え		
14:30～14:55	ｸﾞﾙｰﾌﾟ C1 – C2	
15:10～15:35	ｸﾞﾙｰﾌﾟ C2 – C3	ｸﾞﾙｰﾌﾟ D1 – D2
15:50～16:15	ｸﾞﾙｰﾌﾟ C3 – C1	ｸﾞﾙｰﾌﾟ D2 – D3
16:20～16:45		ｸﾞﾙｰﾌﾟ D3 – D1

A2、B2 は更衣および自分たちが使用したブロックの消毒を終えたらすぐに退館。入れ替わりで C1、C2 が入館する。

前後半でベンチとともに移動。試合後に使用した椅子を消毒（全試合） ※各チームで行う

C1、C2 は A2、B2 の待機場所を使用（キックオフ 1 時間前から入館できる）

8 月 10 日(月祝)

	A ピッチ	B ピッチ
10:00～11:25	ｸﾞﾙｰﾌﾟ E1 – E2	ｸﾞﾙｰﾌﾟ F1 – F2
10:40～11:05	ｸﾞﾙｰﾌﾟ E2 – E3	ｸﾞﾙｰﾌﾟ F2 – F3
11:20～11:55	ｸﾞﾙｰﾌﾟ E3 – E1	ｸﾞﾙｰﾌﾟ F3 – F1
待機場所の消毒後、チーム入れ替え		
12:30～12:55	ｸﾞﾙｰﾌﾟ G1 –G2	
13:10～13:35	ｸﾞﾙｰﾌﾟ G2 – G3	ｸﾞﾙｰﾌﾟ H1 – H2
13:50～14:15	ｸﾞﾙｰﾌﾟ G3 – G1	ｸﾞﾙｰﾌﾟ H2 – H3
14:20～14:45		ｸﾞﾙｰﾌﾟ H3 – H1

E2、F2 は更衣および自分たちが使用したブロックの消毒を終えたらすぐに退館。入れ替わりで G1、G2 が入館する。（以下 8/9 と同じ）

４．各チームへの再度の確認

上記を踏まえ、各チームの参加意思を改めてご確認します。

出場を希望されますか？

希望レベルはどの範囲ですか？（「少しでも高いレベルと試合をさせたい」というニーズではなく、現状を客観的にご判断の上、ご回答ください。特に B ランクを希望された場合は、A に近い B か、C に近い B かをご記入ください）。

いただいた回答を踏まえ 24 チームになるようこちらで調整し、ブロック割りまでいたします。

24 チームを越えた場合、チーム数の調整は実施委員会にお任せください。

私たちが求めるこの大会の出場チーム像の条件は次のとおりです。

通常の大会参加資格をクリアした上で、

条件１）２－3）各チームで準備すべきこと（参加の条件）をすべてクリアしていること

条件２）7 月 28 日の代表者会議（オンライン）に各チームの代表者が出席できること

注)複数チーム出場の場合はチームごとに代表者が必要です(ブロックごとに試合順を決定します)

注)「チーム代表者」とは、チームを代表し、かつ選手に責任を持って指導できる人のことです

条件３）大会の目的と内容を十分理解しすべての参加者が実践すること（代表者が指導できること）

24 チームを超えた場合、次のチームを優先します。

条件４）「フットサル活動再開の喜びを分かち合う」場が、この大会しかないチーム

条件５）高校 3 年生の最後の大会など、特別な位置づけをしているチーム

以上

補足資料2

特定非営利活動法人サロン 2002
2020 年 7 月　月例会報告

2020.8.1.

出場チーム代表者各位

第 20 回　東京都フットサルチャレンジ U-18 の開催について（現状報告とお願い）

同大会実施委員長　中塚義実

先日は代表者会議へのご参加ありがとうございました。現時点では開催へ向けて準備を進めておりますが、一方で代表者会議以降の感染拡大傾向が心配です。

昨日、都立三宅高校から「都内の状況を鑑み参加を見送る」との連絡がありました。今回は船舶利用でなく飛行機での移動を計画されていましたが、島しょ部からの移動に伴うリスクを懸念されてのご判断はやむを得ないと考えます。

今後も同様の判断をせざるを得ないチームが出てくる可能性があるでしょう。まずはすべての人の健康・安全が最優先です。参加については冷静に、客観的にご判断いただき、参加を見合わせる場合はできるだけ速やかにご連絡ください。

以下、本件に関連して 2 点、ご案内とお願いをいたします。

◆三宅高校出場見合わせに伴う当面の対応（チーム募集依頼）

三宅高校の出場見合わせの結果、8 月 10 日（月祝）のグループ G の 2 試合（13：10 東京成徳フットサル部 vs 三宅高校、13：50 錦城 Avs 三宅高校）ができなくなり、このままだと東京成徳フットサル部と錦城 A は 1 試合だけになってしまいます。

代表者会議後の実施委員会では、このような事態が生じた場合の対応について検討済です（皆さんへのアナウンスはしておりません）。この段階で新たにチームを募集することはできませんし、当日試合を終えたチームはすぐに退館しなくてはなりません。よって、別日程で試合を終えたチームの中から参加希望を募ることといたします。

8 月 9 日に試合があるチームの中で､8 月 10 日のグループ G に加わってよいところがありましたら、8 月 4 日（火）中に事務局までご連絡ください。その場合、参加費の追加徴収はいたしません。希望がない場合は、東京成徳フットサル部と錦城 A の試合時間を伸ばすなどの対応をいたします。

◆大会自体の開催について

代表者会議以降の状況を踏まえ、大会の開催自体についても改めて判断する必要があります。

8 月 3 日の会場視察､8 月 4 日までの代替出場希望受付､および各チームの動向や社会情勢を踏まえ、8 月 5 日（水）中に改めて開催についてご案内いたします。なお、状況によっては前日であっても当日であっても｢中止｣の判断をする可能性があることをご承知おきください(暑熱環境でもあります)。

この大会は「不要不急ではなく計画的に行われる大切な活動」です。感染防止対策を徹底的に行ったうえで「“with コロナ”の時代にふさわしい大会とする」ことを目的の一つに掲げています。

改めて皆さんのご理解とご協力をお願いします。

以上

補足資料3

2020.8.3.

出場チーム代表者各位

第 20 回　東京都フットサルチャレンジ U-18 の中止について

同大会実施委員長　中塚義実

7 月 28 日の代表者会議でご案内のとおり、標記大会は、1）フットサル活動再開の喜びを分かち合う、2）“with コロナ”の時代にふさわしい大会とする、の二つの目的を掲げ、開催へ向けて準備を進めてまいりました。各チーム・関係者とも、万全の態勢で準備をされていたことと存じます。

しかしながら代表者会議以降、東京都内の陽性者数は著しく増加し、先週末には出場を見合わせるチームも出てきました。そして昨日、（公財）東京都サッカー協会フットサル委員長より大会中止の要請がありました。いまの状況では、協会主催の競技会を開催することは難しいとの判断です。

「活動再開の喜びを分かち合う」だけでなく、この大会を「高校 3 年生の最後の大会」や「部としての最後の大会」と位置づけていたチーム、クラブがあることも認識しております。この年代の大会が一つなくなることがどれだけ大きな意味を持つのかも重々承知しております。

しかし、すべてに優先されるべきは、一人ひとりの健康・安全です。

残念ではありますが、今大会を中止とさせていただきます。

Ⅲ．2020 年度の U-18 フットサル②

－神戸グリーンアリーナカップをめぐって（本多克己）

1997 年以来、株式会社シックスという民間企業の立場でフットサルの全国大会を開催してきました。ニッポンハムが 11 年、本田技研が 10 年間スポンサードしてくれて、全国最大規模の大会となりましたが、今年はコロナの影響で秋以降の開催を目指して準備中という状況です。U-12 から O-45 まで 12 カテゴリーで開催してきたなかで、U-18 カテゴリーは 2010 年に開設されました。当初は、そもそも出場チームがあるのか、という疑問を持ちながらの開催でしたが、大会をやってみると、武相高校の大友さん、今日も参加してくれている神戸国際の埒田さんなどが熱烈に支持してくれて、きちんと舞台を提供していかなければ、という思いが強くなりました。

東京都で大会を行っていた中塚さんとはそのころから U-18 フットサルの全国大会が必要だろう、という話を繰り返していました。そして筑波大附属高校の体育教官室での忘れられないミーティングがありました。二人で議論しながら、関係者に電話してみると、「JFA でも誰もがその必要性を理解しているが、なかなか前に進まない。まずは JFA の外に大会をつくって、それを公式大会にしていくのがいいのではないか」というアドバイスがあり、ではサロンでやろうじゃないか、ということにな

りました。なんとか全国 9 地域からチームをあつめて、ということで全国の関係者に連絡すると、岡山の作陽高校、名古屋オーシャンズ、京都橘などがすぐに賛同してくれました。

GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。
2015年からは名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟主催、サロン2002共催（ 2017年まで） で、全国9地域から選抜された12チームで開催。
2018年度以後は開催なし。

2012年　名古屋オーシャンズU-18（愛知） / オーシャンアリーナ
2013年　瀬戸内高校（ 広島） /オーシャンアリーナ
2014年　幕張総合高校（ 千葉） / 駒沢体育館
2015年　愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館
2016年　U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
2017年　U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
2018年　U-18神奈川県選抜/和歌山ビッグホエール

フットサルの聖地「オーシャンアリーナ」を会場に「「U-18 フットサルトーナメント」として開催された大会では決勝で作陽とオーシャンズが対戦。延長でオーシャンズが初代王者の座をつかみとった試合は U-18 フットサルの新しい時代の幕開けにふさわしい名勝負でした。

大会は 2015 年からは日本フットサル連盟が主催となり、また、GAVIC がスポンサーになって「GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント」として開催されましたが、2019 年以降の開催がなくなってしまったことは残念です。

サロン2002　公開シンポジウム
『U-18フットサル』を語ろう！

主　催　：　スポーツ文化研究会「サロン２００２」

協　力　：　一般財団法人日本フットサル連盟

日　時　：　2013（平成25）年3月30日（土）

会　場　：　テバオーシャンアリーナ
※「U-18フットサルトーナメント2013」の試合後に開催。

演　者　：　松崎　康弘　（日本サッカー協会常務理事・フットサル委員長）
大立目 佳久　（日本フットサル連盟専務理事）
岩本 芳久　（熊本県サッカー協会フットサル委員長）
中塚 義実　（サロン2002理事長／東京都ｻｯｶｰ協会ﾌｯﾄｻﾙ委員／筑波大学附属高校）

本日は、こうして関係者の皆さんとの意見交換を行っていますが、これまでも節目ごとにシンポジウムなどが開催されてきています。2013 年には、第 2 回 U-18 フットサルトーナメントが開催されている会場で、シンポジウムを開催しました。JFA の松崎常務理事、JFF の大立目専務理事などが参加して、これからの環境づくりを語り合いました。当時は JFA の主催大会ができるのは 5 年ほどかかるだろうという話をしていましたが、松崎さんをはじめとした関係者のご尽力で 2014 年にはこの世代の日本一を決める大会として JFA 主催の「全日本ユース(U-18)フットサル大会」が生まれました。

こうして、「ゼロから U-18 の全国大会をつくる」という当初の目的は果たされ、サロン 2002 としては、全国各地での「日常的なプレーの場づくり」としてのリーグを活性化するためリーグチャンピオンによる大会に取り組むことになりました。初年度は静岡、2 年目は名古屋のオーシャンアリーナで、いずれも地元の協会、連盟の皆さんに力強いサポートをいただき、開催することができました。3 年目からは長野で開催し、さまざまな形で地域と連携した運営が実現しています。

2012 年には特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブの理事に就任することになり、NPO が運営しているグリーンアリーナ神戸で大会を開催することができるようになりました。初年度は 15 チームで開催しましたが、チーム募集をしたところ、エンフレンテ熊本から出場チームについて問い合わせがあり、「作陽など、、」と伝えたところ「では出場します」ということになり、それから毎年熊本から参加してもらっています。

グリーンアリーナ神戸カップU-18フットサルフェスティバル

2012年に15チーム、以後は16チームで開催。2017年からは24チームに枠を拡大するが、例年30チーム以上の申し込みがあり抽選を行っている。

2012年　SAKUYO Coracao de Verde
　　※「クラークカップ U-18フットサルフェスティバル」として開催
2013年　名古屋オーシャンズU-18
2014年　岡山県作陽高校
2015年　作陽高校
2016年　フウガドールすみだファルコンズ
2017年　OKAYAMA SAKUYOSBFC
2018年　ロンドリーナU-18
2019年　（男子）北海道U-18　（女子）HU18（北海道女子）

作陽やオーシャンズのほか、ロンドリーナ、フウガなどの関東の強豪も毎年参加してくれるようになりました。昨年からは女子カテゴリーも開設し、男女とも北海道選抜チームが優勝を飾りました。さらにロシアからはハバロフスク選抜チームも参戦してくれて、この世代のプレーヤーの貴重な競技機会となってきました。

2020年度開催について

フットサルの競技環境も非常に厳しい影響を受けていますが、できる限りプレーの機会を提供したいと考えて、調整、準備を進めており、8月22日（土）、23日（日）の2日間の開催にて調整を行っております。

宿泊なしでも出場可能とするため、各日とも1日で優勝チームを決定する形式とし、30分間（前後半各15分間）のランニングタイムで、各チーム3～4試合を行います。

8月22日(土) 11:00(第1試合)～17:00(決勝)　12チーム
8月23日(日) 10:30(第1試合)～16:30(決勝)　8チーム

女子は以下の日程で4チームリーグを行い優勝を決定します。
8月23日(日) 11:50(第1試合)～15:50(第3試合)
※いずれもキックオフ時間

今年は、JFA の全日本の中止が早々に決定し、多くのチームから「今年の目標はグリーンアリーナ神戸」と言っていただきました。

しかし、現状で全国からのチームを集めての開催は難しいと考えており、どのような形で開催できるのか、開催するべきなのか、という検討を続けています。現状での募集案としては、宿泊をともなう参加は不可とし、1 日ごとに優勝を決定。出場チーム数も限定して開催というものです。中塚さんから話のあった「できない状況のなかで何ができるのか」「無理はしない」「多くの人の賛同を得られるか」という視点にたって、改めて開催のあり方を考えていきたいと思います。皆さんからの意見も聞かせていただいて、大会に反映していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

Ⅳ．2020 年度の U-18 フットサル③

－第 5 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップに向けて

2020 年度の各地域のフットサルリーグについて、プレゼンⅡ、Ⅲの質疑の中で紹介しあい、最後に 2021 年 1 月に長野県千曲市で予定している第 5 回大会について意見交換した。

いずれのリーグも「新型コロナ」の影響で現時点では実施できず、9 月以降の開催になるところがほとんどであった。また当初の計画から、参加チーム数に増減があるところも見られた。

（中塚義実）

＜補足＞

グリーンアリーナ神戸カップ U-18 フットサルフェスティバルは 8 月 22 日（土）、23 日（日）の両日に開催。女子は開催なし、男子は両日とも 6 チームで行った。

関東、東海からの参加申し込みもあったが、電話で相談した結果、自粛いただくことになり、参加は関西のチームのみとなった。

さまざまな制約のなかでの開催となったが、チーム、選手、関係者、会場の協力のもと、大きな問題なく大会が運営された。自粛（不参加）のチームも含めて、競技機会への熱望が実感できたが、それと同時に、状況を理解し自粛を受け入れ、不平不満の声が聞こえなかったことが印象的であった。

（本多克己）